



## 日本コムシス株式会社

国内外における通信施設の整備や回線の敷設、さらには次世代型IP電話システム“comsip”の提供まで、「ワンストップソリューションプロバイダ」をコンセプトとしたトータルな情報通信事業を展開する日本コムシス株式会社。同社では、社内の情報システムがますます複雑化する中、認証プロセスの煩雑化を解消するためにノベルのアイデンティティマネジメントソリューションを導入。統合化されたアカウント管理により、ユーザビリティを保ちつつ、情報セキュリティの強化を実現している。

### 導入の経緯

ネットワーク再構築後に浮き彫りとなった統合的なアカウント管理の必要性。2001年8月、日本コムシスでは品川から大崎への本社一部移転を契機に、全社的なネットワークの再構築を実施した。従来のATMネットワークからIP-VPNに切り替えて回線の高速化を実現するとともに、フルメッシュ型の相互接続を活用して、全国の拠点に分散する各種サーバに対する本社からの集中管理が可能となった。

ただ、ネットワークの刷新は実現したものの、業務に応じてユーザが多様なシステムを使い分ける状況に変わりはなく、ユーザIDやパスワードの統合によるユーザの使い勝手向上と、システム管理の煩雑さの解消が新たな課題として浮上してきた。実際、社員の異動にともなうアクセス権限の変更や、協力会社社員・派遣社員へのID発行が遅れることにより業務に支障が出る場合もあり、効率的なアカウント管理の実現は急務となっていた。

同社のシステム部門の責任者である藤本晴彦氏は「それともう一つ、今回の取り組みの大きなきっかけとなったのがISMS (Information Security Management System) だった。当社では、2003年8月に本社の一部部門で、さらに2004年8月には全社・全部門でISMSを取得したが、そのための取り組みが2002年にスタートしており、情報セキュリティ対策の面からも、統合的なアカウント管理を実現する必要があった」と当時を振り返る。

### 選定ポイント

「シングルアカウント」構想の下、3ステップでアカウントの統合化を推進。2002年10月、同社ではアカウントの統合化を実現する「シングルアカウント」構想を描き、その最初のステップとしてNovell eDirectoryを導入。統合的なアカウント管理のための認証基盤を構築した。

当時、既にシングルサインオン製品は幾つか存在していたが、その仕組みではサーバごとにユーザを管理する必要があり、管理側の煩雑さは解消されないままだった。そこで、人事発令により発生するユーザ情報の追加・削除・変更を、ユーザ管理システムで一元的に管理できるようにした。

システムの管理責任者である佐藤博氏は「当社では、NetWare 4.1のころからファイル/プリントサービスやディレクトリサービスを利用しており、ノベル製品の運用については技術的な蓄積があったことから、ディレクトリ製品として成熟度が高いことから、認証基盤として迷わずeDirectoryの導入を決定した」と語る。

2003年4月には第2のステップとして、シングルパスワードの実現に取り組んだ。Novell Identity Managerを導入し、ユーザ管理システムと各業務システムのアカウント情報を自動連携。各システムのパスワードを一元管理して、1つのパスワードで複数のシステムを利用できるようにした。さらに2004年2月には3番目のステップとして、サービス権限管理の一元化を進めた。権限情報までを一元管理することにより、人事異動によるユーザ権限の変更管理が容易になるとともに、権限管理の精度が向上することとなった。

### ソリューション・導入の効果

シングルアカウントの導入が、企業統合にも効果を発揮。ステップ2からステップ3へ移行中の2003年9月、日本コムシスは株式会社三和エレクトリックおよび東日本システム建設株式会社との経営統合を実施。社内IT部門には、経営統合を見すえたシステムの構築・運用が求められた。そこで日本コムシスの基幹システムを2004年2月からほかの2社にも導入することとし、約1年後の2005年4月から運用をスタートさせた。

### 日本コムシス株式会社 概要

日本及び海外においてテレコミュニケーションインフラサービスを提供

#### ■ Industry:

通信情報基盤構築、IPネットワーク構築、モバイルソリューション、環境事業など

#### ■ Location:

日本

#### ■ Solutions:

Novell eDirectory  
Novell iChain  
Novell Audit  
ノベルアイデンティティマネジメント

#### ■ Results:

- 社内IT部門の工数が大幅に減少
- 申請から利用までの時間が短縮し、利用部門の満足度が向上
- 利用部門の情報セキュリティ意識が向上

「今回のノベルソリューションの導入では、自社システムへの取り組みという、またとない機会の中で大きな成果を挙げることができた。この運用実績とノウハウを元に、当社のお客様へも最適な認証環境の提案ができればと考えている」

ITビジネス事業本部  
社内IT部門  
担当部長  
藤本 晴彦氏

ITビジネス事業本部  
社内IT部門  
担当課長  
佐藤 博氏

「当社では、NetWare 4.1のころからファイル/プリントサービスやディレクトリサービスを利用しており、ノベル製品の運用については技術的な蓄積があったことと、ディレクトリ製品として成熟度が高いことから、認証基盤として迷わずeDirectoryの導入を決定した」

ITビジネス事業本部  
社内IT部門 担当課長  
佐藤 博氏

[www.novell.com](http://www.novell.com)

この局面で威力を発揮したのが、以前から取り組んでいた基幹システムのWeb対応だった。業務の性格上、ユーザは現場から基幹システムへアクセスする必要があり、イントラネット上に「小虫図鑑」と呼ばれるポータルサイトを運用していた。このポータルに3社の基幹システムへの入り口を設け、ユーザ権限に応じて使用可能なシステムを表示させるようにした。Novell iChainの導入によって実現したこの仕組みにより、例えばグループ内の他社に出向中のユーザであっても、自社の基幹システムにアクセスできるというロケーションフリー化が実現した。シングルアカウントへの取り組みが、結果的に経営統合においても効果を発揮することとなった。

こうしてアカウント統合/システム間自動連携にはじまり、シングルパスワード、権限の統一、Web化というステップを踏むことで、ユーザの使い勝手向上と情報セキュリティ強化を両立させただけでなく、アカウントの運用管理工数を大幅に減らすことに成功し、コスト削減が実現した。

「実際、ユーザアカウントの運用管理工数を比較してみると、ファイル/プリント共有については3.5人日/月が完全自動化に、グループウェアについては2.5人日/月が1人日/月に、基幹システムについては3人日/月が各システムの責任部門での付与となり、また、Active DirectoryやLDAPについては各部門のユーザ管理者が登録するという事で、社内IT部門の工数が大幅に減少した。申請から利用までの時間が短縮し、利用部門の満足度が向上したことも、大きな効果だった。さらに、各システムの責任部門やユーザ管理者が登録作業を行うことで、利用部門の情報セキュリティ意識が向上したことも間接的な導入効果といえる」(藤本氏)。

## 今後の展開

情報セキュリティの強化のみならず、業務プロセスの透明化にも対応:藤本氏は、今回の取り組みの成功要因を「既存システムを動かしながら、3ステップで徐々に浸透させていったことだろう。また、ISMSの取得という全社的な目標を掲げ、ユーザの意識を高めながら取り組みを進めていったことも大きかったと思う」と分析する。

日本コムシスでは、導入したノベル製品とその運用により蓄積したノウハウを、ソリューションとして同社の顧客へも提供していく予定だという。「今回のノベルソリューションの導入では、自社システムへの取り組みという、またとない機会の中で大きな成果を挙げることができた。この運用実績とノウハウを元に、当社のお客様へも最適な認証環境の提案ができればと考えている」(佐藤氏)。

2009年4月から、いわゆる日本版SOX法の導入が予定されるなど、今後企業には情報セキュリティの強化のみならず、業務プロセスの透明化が求められるようになる。同社のアカウント管理の取り組みは、多くの企業にとって参考になることだろう。



ノベルのユーザ事例について詳しくは、  
こちらをご覧ください  
[www.novell.com/ja-jp/showcase/](http://www.novell.com/ja-jp/showcase/)

製品情報に関するお問い合わせ先  
ノベルインフォメーションセンター  
[www.novell.com/ja-jp/nicweb/](http://www.novell.com/ja-jp/nicweb/)

## ノベル株式会社

〒141-8551  
東京都品川区西五反田3-6-21  
住友不動産西五反田ビル